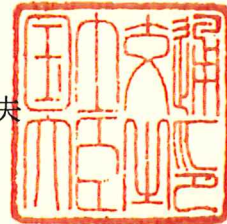


認定書

国住参建第 543 号
令和 4 年 5 月 27 日

明治鋼業株式会社
代表取締役社長 井上 憲二 様

国土交通大臣 齊藤 鉄夫



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 25 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第七号並びに同法施行令第 107 条第一号及び第二号（床：2 時間（第一号）、1 時間（第二号））の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
FP120FL-0239
2. 認定をした構造方法等の名称
普通コンクリート・デッキプレート造床（合成スラブ）
3. 認定をした構造方法等の内容
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 構造名

普通コンクリート・デッキプレート造床（合成スラブ）

2. 荷重及び支持間隔

- 床の支持間隔 2,200mm 以下の場合

自重を含めた全荷重 20.66kN/m²以下

- 床の支持間隔 2,200～3,000mm の場合

自重を含めた全荷重(W)×支持間隔(L)の2乗=100kN 以下（一般的な支持間隔と荷重を表-1に示す。）

注) 全荷重=固定荷重+積載荷重

3. 材料構成等

項 目	製 品 仕 様
床版	デッキプレート 規格：JIS G 3352（デッキプレート） 鋼板の種類：SDP1TG、SDP2G 鋼板の厚さ(mm)：1.0、1.2、1.6 山高さ(mm)：50(±1.5) 働き幅(mm)：600(+8,-2)、300(+8,-2) 形状及び寸法：「4. 構造説明図」参照 コンクリート 規格：JIS A 5308（レディーミクストコンクリート） 種類及び呼び強度(N/mm ²)：普通コンクリート、18～24 デッキプレート山上からの厚さ(mm)：80～100 床版の総厚さ(mm)：130以上 支持条件：単純支持又は連続支持
ひび割れ拡大防止用鉄筋	種類：①又は②のいずれかとする。 ①溶接金網 規格：JIS G 3551（溶接金網及び鉄筋格子） 径(mm)：6以上 間隔(mm)：150以下×150以下 かぶり厚さ(mm)：コンクリート上面から30以上 ②鉄筋（異形鉄筋） 規格：JIS G 3112（鉄筋コンクリート用棒鋼）又はJIS G 3117（鉄筋コンクリート用再生棒鋼） 径：D10以上 配筋間隔(mm)：200以下×200以下 かぶり厚さ(mm)：コンクリート上面から30以上
スペーサー	種類：①又は②のいずれかとする。 ①鉄線 径(mm)：6以上 （規定のかぶり厚さが確保でき、施工時に変形などしない線径以上） 配置間隔：1ヶ/m ² 以上 ②セメントモルタルブロック 寸法：規定のかぶり厚さが確保できる断面寸法以上 配置間隔：1ヶ/m ² 以上

項 目	製 品 仕 様
接合方法	梁と床版の接合 仕様：頭付きスタッド 規格：JIS B 1198 (頭付きスタッド) 径寸法(mm)：16 以上 長さ(mm)：80 以上 打設間隔(mm)：300 以下 梁とデッキプレートの接合 仕様：①又は②のいずれかとする。 ①アークスポット溶接 ②すみ肉溶接 梁とデッキプレート端部のかかり代(mm)：50(-10)以上

表—1 一般的な支持間隔と荷重

支持間隔(mm)	自重を含めた全荷重 (kN/m ²)
2,200 以下	20.66
2,300	18.90
2,400	17.36
2,500	16.00
2,600	14.79
2,700	13.72
2,800	12.76
2,900	11.89
3,000	11.11

注) 支持間隔が表の中間の数値の場合は、 $W \cdot L^2 \leq 100\text{kN}$ 以下であることを確認すること。

W：自重を含めた全荷重(kN/m²)

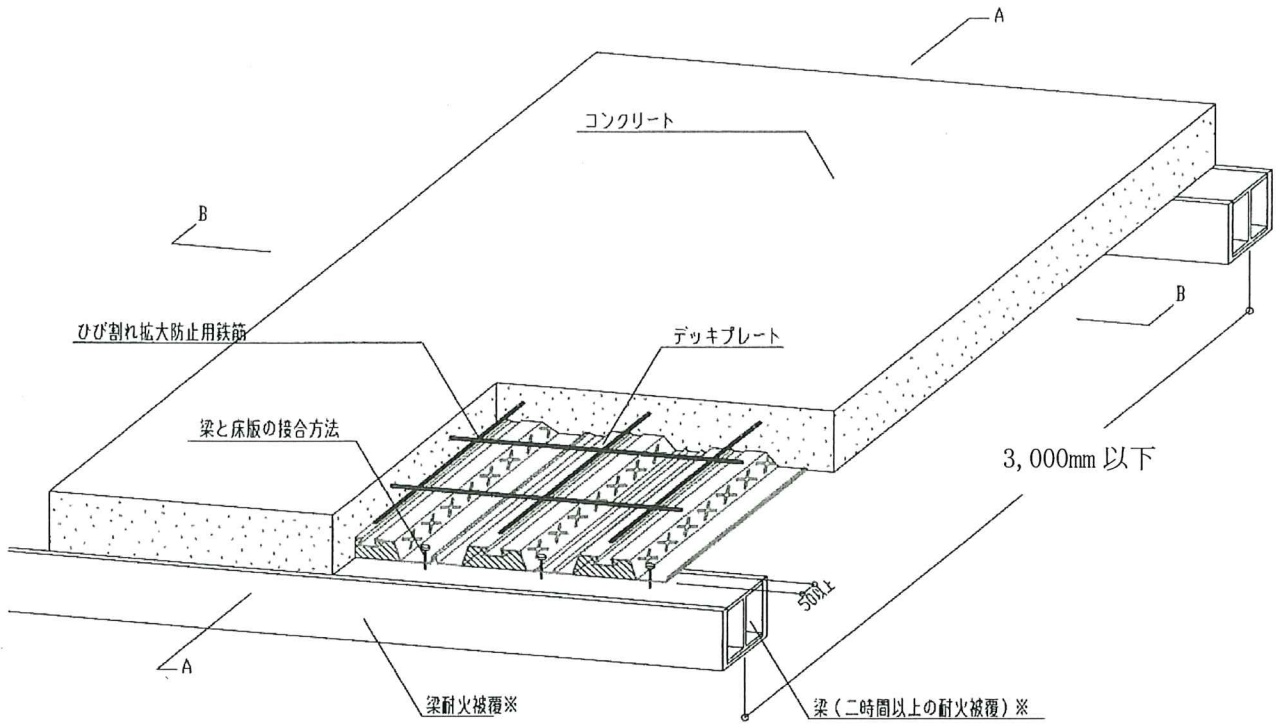
L：支持間隔(m)

4. 構造説明図

(1) 透視図

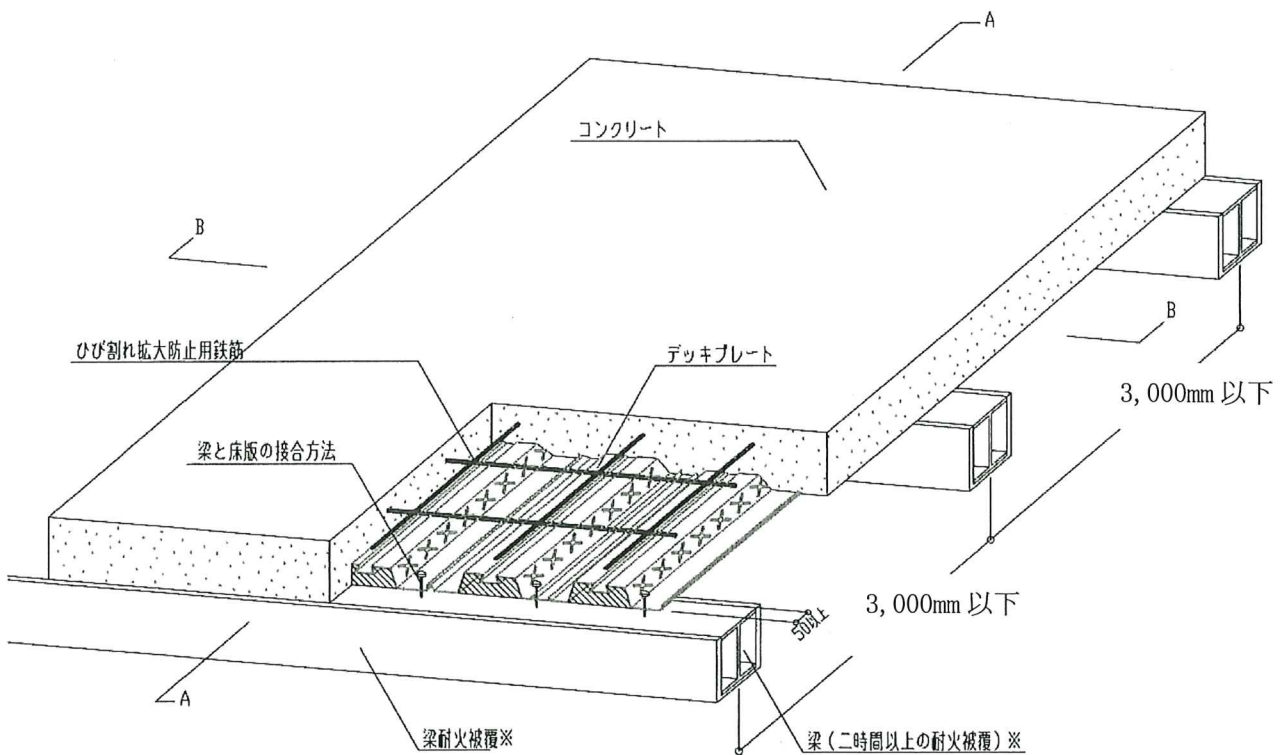
(単位：mm)

(1)-1 デッキプレートが単純支持の場合



※は、評価対象外。

(1)-2 デッキプレートが連続支持の場合

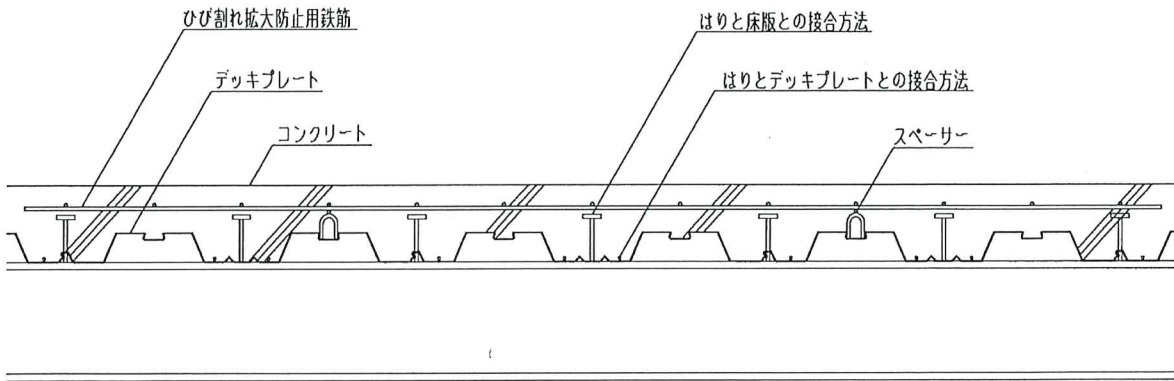


※は、評価対象外。

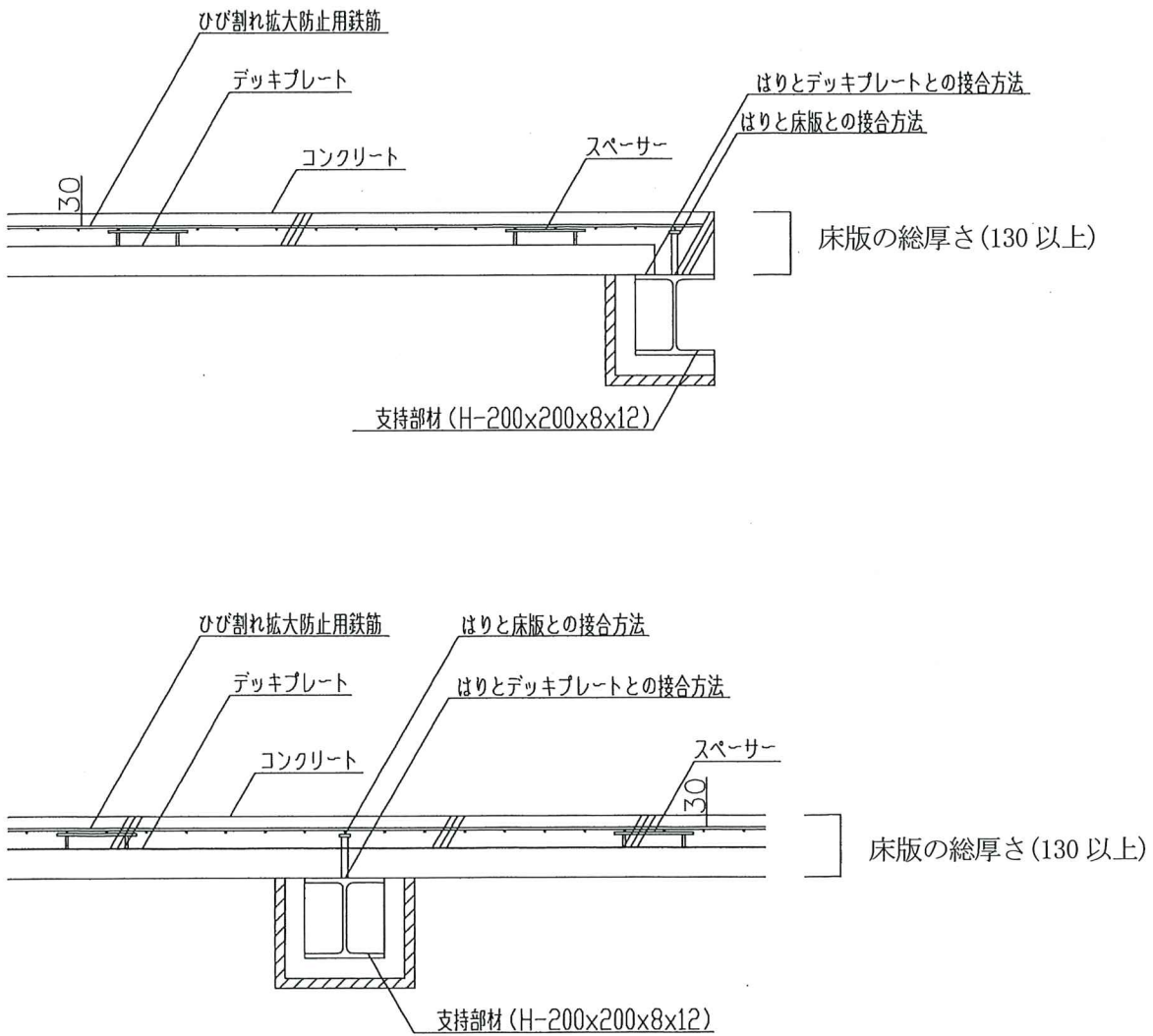
(2) 断面図

(単位：mm)

(2)-1 A-A断面図

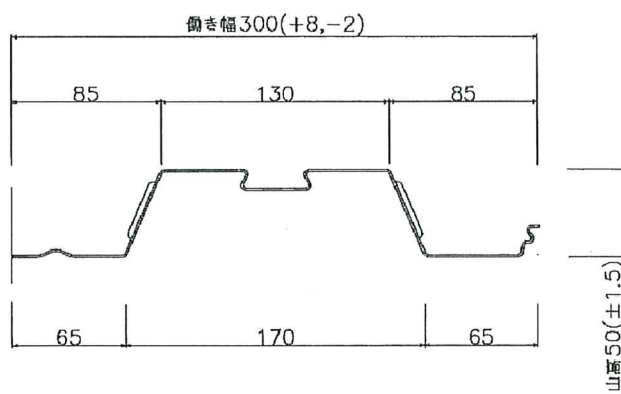
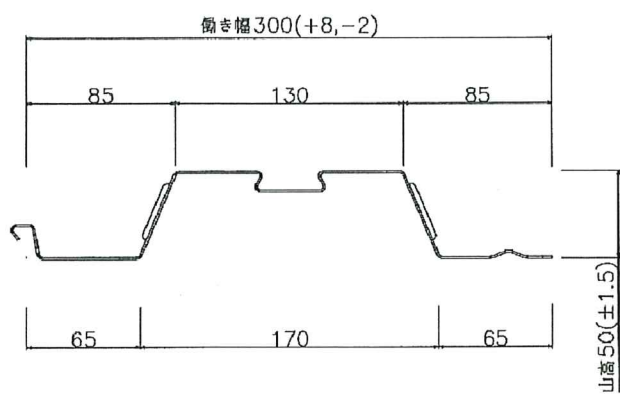
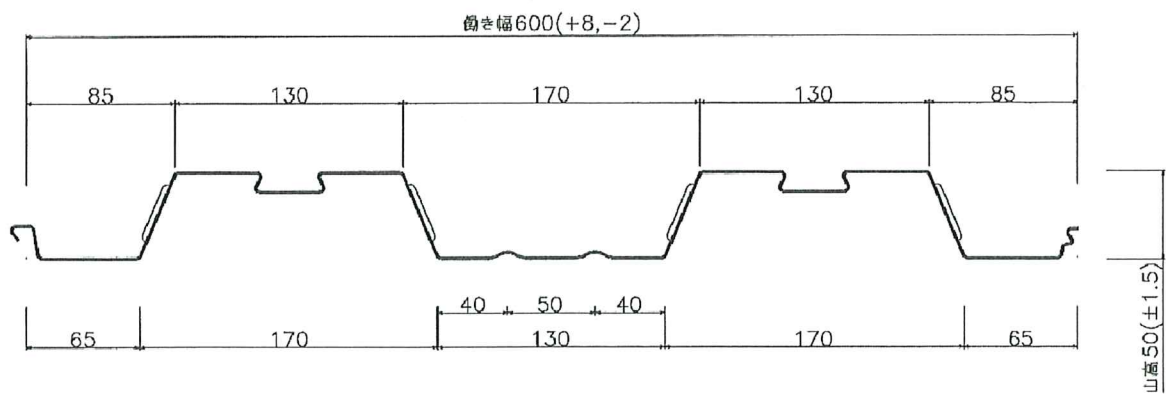


(2)-2 B-B断面図



(3) デッキプレートの形状及び寸法

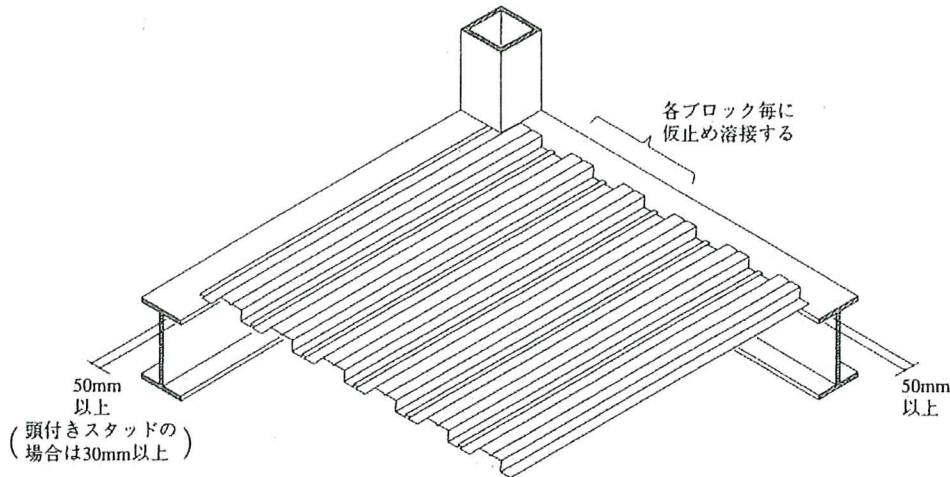
(単位 : mm)



5. 施工方法

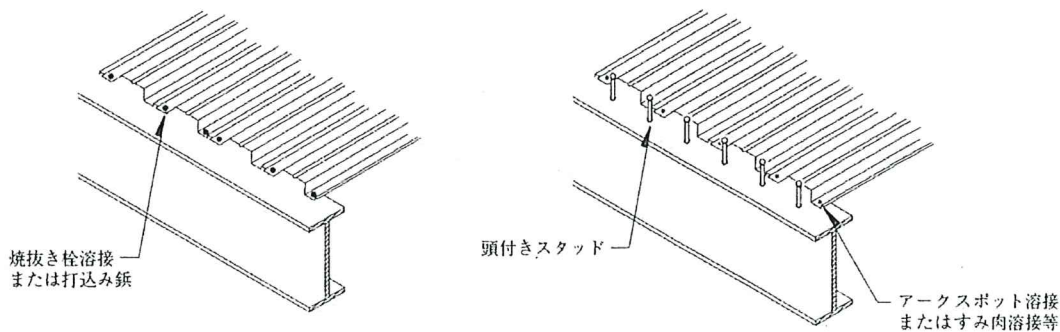
1) デッキプレートの敷込み

鉄骨梁の場合、支持梁の墨出し線に合わせて1枚目のデッキプレートを仮止め溶接した後、順次適当な枚数間隔（5～10枚）毎に仮止め溶接する。



2) 合成スラブとはりとの接合

合成スラブと鉄骨梁とは、頭付きスタッドで結合する。デッキプレートと鉄骨梁とは、頭付きスタッドの施工前に、すみ肉溶接またはアークスポット溶接等で結合する。



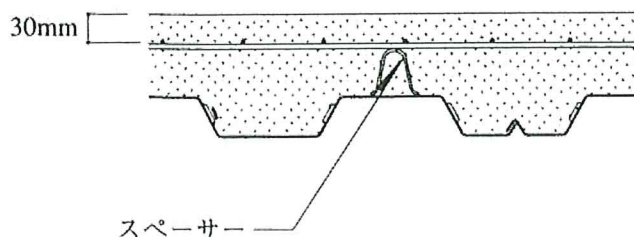
注) 頭付きスタッドを使用する場合は、焼抜き栓溶接は不要です。

3) デッキプレート相互の接合

デッキプレート相互の接合は、箆合等により構造上・耐火上有効に行う。

4) ひび割れ拡大防止用鉄筋の設置

溶接金網は、スラブ上面から30mmのかぶり厚さを確保して、はり上を含め床全面に敷き並べる。スペーサーは、1.0m以下のピッチで用いる。異形鉄筋を用いる場合は、D10以上を縦間隔及び横間隔とも200mm以下で、スラブ上面から30mmのかぶり厚さを確保して、はり上を含め床全面に敷き並べる。配筋の詳細は、日本建築学会編「建築工事標準仕様書 JASS 5 鉄筋コンクリート工事」による。



5) コンクリート打設

溶接金網または異形鉄筋が移動しないように注意しながらコンクリートを不陸なく打設する。コンクリートの施工については日本建築学会編「建築工事標準仕様書 JASS 5 鉄筋コンクリート工事」に準じて行う。

6) 仕上げ

原則として、コンクリートの表面は金ごて等の仕上げを施す。

7) 養生

コンクリート打込み後の養生は、日本建築学会編「建築工事標準仕様書 JASS 5 鉄筋コンクリート工事」に準じて行うが、初期には湿潤養生を行い、十分な養生期間をとるように留意する。

8) はりの耐火被覆

はりに所定の耐火性能が要求される場合は、それらに応じて適切な耐火被覆を施す。